

# SDGs未来都市等進捗評価シート

富山県

2020年9月

SDGs未来都市計画名

富山県SDGs未来都市計画

1. 全体計画

計画タイトル	富山県SDGs未来都市計画
2030年のあるべき姿	環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」 ①世界に誇れる雄大な「立山黒部」や「世界で最も美しい富山湾」など美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県 ②「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」が確立した県

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール8 ターゲット8.9 ゴール9 ターゲット9.4 ゴール7 ターゲット7.2   	ゴール12 ターゲット12.5 ターゲット12.8 ゴール17 ターゲット17.17  	ゴール15 ターゲット15.1 ゴール14 ターゲット14.1 ゴール6 ターゲット6.3   

	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
			2017年	2019年	2030年	2019年	
優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	1	立山黒部アルペンルートへの外国人観光客数	2017年	263,000 人	2030年	420,000 人以上	2019年 240,400人 新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら誘客活動を展開することとしている。
	2	観光地入込数（富山湾岸エリアの主要観光地・観光施設）	2017年	300 万人	2030年	339 万人	2019年 335万人 ゴールデンウィーク（10連休）の効果もあり、海王丸パークなどの観光地の入込数が増加した。引き続き、「世界で最も美しい富山湾」のブランドを活かした国内外への魅力発信による観光振興や地域活性化を図る。
	3	県産代表6魚種の産出額（税抜）	2016年	46 億円	2030年	54 億円以上	2018年 36億円 2017、2018年は一部の魚種の漁獲量減の影響もあり、産出額は減少した。ホテルイカ、シロエビ、高志の紅ガニ、プリを中心として「富山のさかな」のブランド化を一層推進する。
	4	小水力発電の整備箇所数	2019年2月	48 箇所	2030年	60 箇所以上	2019年 49箇所 今後も継続的に新規箇所の整備が見込まれているが、持続可能な社会の構築と快適な生活の実現の両立を図るため、エネルギーに関する継続的な普及啓発が必要。
	5	一般廃棄物再生利用率	2016年度	25.6 %	2030年度	28 %以上	2018年度 26.7% レジ袋削減等による容器包装廃棄物の排出抑制、使用済小型家電や店頭回収された資源物等のリサイクルによる循環的利用を進めているが、目標の達成には集団回収や民間事業者による回収など資源回収の強化等を引き続き実施する必要がある。
	6	食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合	2018年度	70.1 %	2030年	90 %以上	2019年 80.9% 食品ロス削減推進計画（R2.4）の策定を契機として、今後より一層の食品ロス削減の取組みの加速化を図る。
	7	水質に係る環境基準の達成率	2018年3月	100 %	2030年	100 %	現時点では100%達成しているが、水質は自然要因に左右されるため、引き続き排水対策や県民総参加による水環境保全活動の促進が必要
	8	県内市町村が実施した清掃美化活動の参加者数	2015年度	24 万人	2030年度	25 万人以上	2020年3月 24.2万人 近年は目標を達成した年度もあり、さらなる啓発の実施により達成可能と考える。 今後も引き続き、県内全域での清掃美化活動を展開するとともに、スポーツごみ拾い大会のモデル開催やスマホアプリを活用した自主的なごみ拾い活動の促進などの啓発を行うことにより、清掃美化活動の参加人数の維持・拡大を図る。
	9	里山林の整備面積（累計）	2017年度	2,844 ha	2030年	4,600 ha以上	2019年 3,359ha 累計3,359haの整備を実施しており、順調に推移している
	10	優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽面積（累計）	2017年度	62 ha	2030年	500 ha以上	2019年 99ha 累計99haの植栽を実施しており、今後苗木の安定生産が課題となる

# 1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県総合計画「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦ー」</li> <li>・とやま未来創生戦略2019</li> <li>・富山環境基本計画</li> </ul> <p>本県では、2019年3月に「とやま未来創生戦略」を改訂し、本戦略に掲げる各種施策の展開に当たっては、SDGs達成の観点を取り入れ、より広範な視野から持続可能な県づくりに取り組むことで地方創生を深化させていくこととしており、この趣旨を踏まえて、各種計画の策定・改訂、施策を展開している。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ</p> <p>本県における自治体SDGsの取組みを推進するにあたり、庁内関係部局の緊密な連携を図るため、知事を本部長とする「とやま未来創生推進本部」において、SDGsの取組みに関する施策の企画、調整及び推進等を行うこととしている。</p>	<p>■情報発信</p> <p>(域内向け) 県の広報誌やホームページなどの広報媒体や、テレビ・ラジオなどの県政番組などを活用して広報を行うほか、県も参画する「とやま環境フェア」などのイベントでPRするとともに、県民やNPOなどの関係団体・機関、市町村などと連携して、県民や事業者等に対して本県のSDGsの取組みを積極的に発信する。</p> <p>(域外向け(国内)) 国や他の自治体が開催するSDGsのイベントや、2019年7月に開催された「TGC富山」において県内外の若い世代への情報発信を実施したほか、近県知事との懇談会や2019年7月に本県で開催された全国知事会議での自治体トップへの情報発信を行った。</p> <p>(海外向け) 2019年5月に本県で開催された「日台観光サミット」や2019年10月に本県で開催された「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会において、世界各国から訪れる関係者に対して、本県の自然・歴史・文化、産業等の魅力や環境保全などとともに、SDGsへの取組みを世界に向けて発信した。また、本県で開催される国際的な学会等のコンベンションの機会を捉えて、積極的に発信する。</p> <p>■普及展開策</p> <p>本県は、レジ袋の無料配布廃止の取組みや、「富山型使用済小型家電等リサイクル」など、他地域に普遍性のある社会的課題に対して、県民総参加で解決に取り組み、その成果を全国に波及させてきた歴史を持っており、この成果をSDGsの普及展開に活かすことができる。</p>	<p>■新エネルギーの採用、水資源の保全等は低いKPIとなっているが、そのほかのKPIは、ほぼ計画通りに達成できており、全体としては順調であると評価できる。今後は県内のSDGs未来都市との連携を一層進め、富山全体のまとめ役となることを期待する。</p> <p>■食品ロス削減に資する取組は非常に重要であるが、取組内容は多岐にわたっており、単純に取り組む人の割合を増やすだけでなく、どのような効果がどのような場面で必要とされるかを評価した上で、評価が高いものを中心に横展開するといった仕組みがあるとさらに価値が高まると思料する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■「とやま未来創造県民会議」(産業界、高等教育機関、行政機関、金融機関、労働団体等で構成)や「富山県SDGs推進連絡協議会」(市町村や経済界、有識者、NPOなど多様なステークホルダーが参画)などをはじめ、県民、企業やNPOなどの関係団体と連携を図りながら、SDGsの取組みを推進する。</p> <p>■SDGs未来都市に選定されている富山市、南砺市を含む県内の全市町村と一体となって、本県のSDGsの推進に取り組む。</p> <p>■七尾市をはじめとする石川県の富山湾沿岸自治体、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している自治体、本県河川の上流域である岐阜県などと、情報交換や連携協力を進めるなど、コミュニケーションを図ることで、SDGsの取組みを拡大に努める。</p> <p>■国際機関や世界に事業展開している団体(北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)、北東アジア地域自治体連合(NEAR)、(独)国際協力機構(JICA))などと連携を図りながら、SDGsの取組みを推進する。</p>	<p>■近年、水環境については、①マイクロプラスチックによる生態系への悪影響、②食品ロス・食品廃棄物による仮想水の浪費や焼却処分時のCO<sub>2</sub>排出、③世界的な水産物需要の増大に対応した水産資源の確保などが、重大な社会問題となっている。これまで水の恵みにより発展してきた富山県として、また、最先端の「環境・エネルギー県」を標榜する富山県としては、これらの課題は本県の社会・経済・環境の持続可能性にとっても重大な危機であるという認識を県民・事業者など社会全体で共有を図り、</p> <p>①プラスチックごみの削減や地下水の適正利用により「水をまもる」</p> <p>②「富山のさかな」の資源持続性の高さを水産業の振興に活かす「水をいかす」</p> <p>③貴重な水を利用して生産した食品を無駄にしない「水をいたわる」</p> <p>という、社会・経済・環境面それぞれからの3つの視点について、個別施策の企画・執行の際にも配慮し、「山と森から富山湾へ清らかな水の循環の創造」を基本理念とした取組を進めることにより、課題の解決に向けた自律的な好循環を創り出し、その成果を内外に発信することで「環境・エネルギーフロントランナー」として地方創生・地域活性化に貢献することを目指す。</p>	

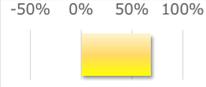
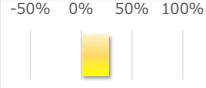
# SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

## 1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2021年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	「立山黒部」の世界ブランド化	8.9	立山黒部アルペンルートへの外国人観光客数	2017年 263,000 人	2019年 240,400 人	2021年 360,000 人以上	 -50% 0% 50% 100% -23%	国や近隣県、観光事業者等と連携し、海外での現地広告や旅行会社・メディアの招聘、WEB・SNSによる情報発信等に取り組んでいる。今後は新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら誘客活動を展開することとしている。
	国際的ブランド「世界で最も美しい富山湾」の活用	8.9	観光地入込数（富山湾岸エリアの主要観光地・観光施設）	2017年 300 万人	2019年 335 万人	2021年 312 万人	 -50% 0% 50% 100% 292%	ゴールデンウィーク（10連休）の効果もあり、海王丸パークなどの観光地の入込数が増加した。引き続き、「世界で最も美しい富山湾」のブランドを活かした国内外への魅力発信による観光振興や地域活性化を図る。
	水産業の振興と富山湾のさかなのブランド力向上	9.4	県産代表6魚種の産出額（税抜）	2016年 46 億円	2018年 36 億円	2021年 50 億円	 -50% 0% 50% 100% -250%	首都圏での「富山のさかな」PRイベント等を開催し、「富山のさかな」のブランド化（知名度の向上等）に取り組んでいる。魚価は漁獲量に左右される部分はあるが、ホタルイカ、シロエビ、高志の紅ガニ、ブリを中心として引き続き「富山のさかな」のブランド化の推進に努める。
	再生可能エネルギーの導入、新たなエネルギーの利用に向けた開発の促進	7.2	小水力発電の整備箇所数	2019年1月 48 箇所	2019年 49 箇所	2021年 53 箇所	 -50% 0% 50% 100% 20%	農業用水を利用した整備を中心に、毎年度順調に増加している。持続可能な社会の構築と快適な生活の実現の両立を図るため、エネルギーに関する継続的な普及啓発が必要。
	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	12.5	一般廃棄物再生利用率	2016年度 25.6 %	2018年度 26.7 %	2021年 27 %以上	 -50% 0% 50% 100% 79%	レジ袋削減等による容器包装廃棄物の排出抑制、使用済小型家電や店頭回収された資源物等のリサイクルによる循環の利用を進めているが、目標の達成には集団回収や民間事業者による回収など資源回収の強化等を引き続き実施する必要がある。
	「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立	17.17	食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合	2018年度 70.1 %	2019年 80.9 %	2020年 80 %	 -50% 0% 50% 100% 109%	富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議を核とした全県的な食品ロス等削減運動（とやま食ロスゼロ作戦）の展開により、2021年度の目標値を達成。引き続き、食品ロス問題の認知度の伸び率が低い若年層への働きかけや、消費者への商慣習見直しに関する周知啓発に努めるなど、食品ロス削減の取組みの実践に繋がるよう働きかけを行う。
	立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全	15.1	水質に係る環境基準の達成率	2018年3月 100 %	2019年 100 %	2021年 100 %	 -50% 0% 50% 100% 100%	現時点では100達成しているが、水質は自然要因に左右されるため、引き続き工場からの汚濁負荷の抑制などの排水対策や、事業者による自主的な環境保全活動、若い世代の理解や参加を促すための体験会・観察会の開催など県民総参加による水環境保全活動の促進が必要
	清らかな水資源の保全と活用	14.1	県内市町村が実施した清掃美化活動の参加者数	2016年3月 24 万人	2020年3月 24.2 万人	2021年 25 万人	 -50% 0% 50% 100% 20%	近年は目標を達成した年度もあり、さらなる啓発の実施により達成可能と考える。今後も引き続き、県内全域での清掃美化活動を展開するとともに、スポーツごみ拾い大会のモデル開催やスマホアプリを活用した自主的なごみ拾い活動の促進などの啓発を行うことにより、清掃美化活動の参加人数の維持・拡大を図る。

## 1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2021年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	水と緑の森づくり	6.3	里山林の整備面積 (累計)	2017年度 2,844 ha	2019年 3,359 ha	2021年 3,600 ha	 -50% 0% 50% 100% 68%	順調に整備が進捗している
	水と緑の森づくり	6.3	優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽面積 (累計)	2017年度 62 ha	2019年 99 ha	2021年 200 ha	 -50% 0% 50% 100% 27%	ほぼ計画どおりだが、今後苗木の安定生産が重要となる